

別紙参考様式 2

令和 5 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立上黒瀬小学校

学校長名 税所 裕子

① 研究主題

「わかった」「できた」と喜びを感じ、自ら学ぶ児童の育成
～振り返りを大切にした算数科の学習を通して～

② 主題設定の理由

本校は児童の主体的な学びを実現するために、国語科の書く活動で身に付けた力を他教科での学習活動につなげていくことに重点を置いて授業改善をおこなってきた。単元計画において、児童の考えを表現させる活動を厳選し、児童に既習事項を意識させることで、積極的に考えを書いたり発表したりする力を育成することができた。また、ICT の活用を効果的に行うことで、児童が主体的に学びに向かう姿勢ができてきた。

しかしながら、12月に行った標準学力調査の各学年の算数の結果を分析したところ、全体的に得点率分布に大きく開きがあることが分かった。全学年の総合評価（評定3）では、3段階のうち、2・1評価（目標値+5ポイント未満）が全体の40.7%を占めており、全体の4割にあたる。

国際化や情報化の進展、価値観の多様化など、大きく変化しつつある社会において、児童がしっかりと意思をもって生きていくためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得や、主体的に判断し行動する資質・能力を身に付けていくことが大切である。そのためには、児童一人一人が「確かな学力」を身に付けなければならない。新学習指導要領においては、知識および技能の習得と思考力・判断力・表現力等のバランスを重視した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成すること、また、学びに向かう人間性を養うことがポイントとしてあげられている。また、新学習指導要領における算数科の目標としては、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のように育成することを目指している。

- (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質を理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じ

て柔軟に表したりする力を養う。

- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

小学校算数科においては、数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、算数と日常との関連についての理解を深め、算数を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程や結果を評価・改善しようとしたりするなど、数学的に考える資質・能力を育成することを目指している。

以上のことを踏まえ、本年度は、算数科における基礎的・基本的な知識・技能の習得をベースとして、振り返りを大切にしたい授業を通して、児童に自信をもたせ、わかる喜びを感じ、自ら学ぶ児童を育成したいと考え、今年度の研究主題を『「わかった」「できた」に喜びを感じ、自ら学ぶ児童の育成～振り返りを大切にしたい算数科の学習を通して～』として、研究を進めていく。

③ 研究主題について

(1) 「わかった」「できた」の実感とは 指導方法の工夫を通して、児童が次のような状態になっていることを指す。

・ 「解けた」「わかった」「できた」という気持ちを持ち、学習内容を理解していることへの達成感や 成就感を味わいながら取り組んでいる。

例 わからなかった問題が教師のヒントや友だちの説明で解けた！ 計算練習をしたら、筆算がスムーズにできるようになった！ 図に表して考えると、式の意味や考え方がわかった！

・ 主体的に授業に参加し、自分の考えが周囲に認められたという自信をもちながら取り組んでいる。

例 今日勉強すること、楽しそうだな。(導入の工夫→主体的に参加) わかったところ発表してみようかな。(少人数なら・・・) ちょっと、まだわからない・・・(わからないこと認めてもらえる環境)

・ 既習内容（わかったこと、できたこと）を活用して、友だちに進んで説明しようとしている。

例 5×7 ? かけ算は、一つ分 \times いくつ分だから、 7×5 ? 一人分が7こ 7こが5人分で 7×5 という式になると思います。

(2) 「自ら学ぶ児童」とは

- ① 学ぶ意味や目的がわかっている児童
- ② 学習方法を知っている児童（話し方名人・聞き方名人としての姿を意識している、ノートのとり方を知っている。）
- ③ 問いを見出し、考えようとしている児童
- ④ 自分の考えと友だちの考えを比べようとしている児童
- ⑤ 学習したことを生かして、新たな問題や課題に「やってみよう」「挑戦してみよう」という気持ちで取り組んでいる児童。

(3) 「振り返り」とは

- ① 学んだことやわかったことを自分なりにまとめること
- ② どのように考えることで答えが導き出せたか課程をたどること
- ③ 方法を見つけたり、解き方がわかったりしたきっかけをおさえること
- ④ 適用問題を解き、学んだことを使えると実感すること
- ⑤ わからないことを認め、何がわからないのかおさえること

③ 研究仮説

児童と共に学習問題をたて、学びの過程を振り返ることができる授業作りをすれば、「わかった」「できた」と感じ、自ら学ぶ児童が育つだろう。

④ 研究内容

(1) 上黒瀬小学校の学習過程「上小授業モデル」の徹底

素材をつかむ→学習問題をたてる（異同弁別）→自力解決をする→比較検討をする（小まとめ）→まとめ→適用問題→振り返り

(2) 振り返りの充実

・ 本時の学習内容を確実に身に付けさせる。

- ・自己の変容や成長を自覚することにより，充実感や満足感を味わわせるとともに，次時への学習意欲を高める。
- ・適切な評価により，評価結果を指導に生かす。

⑤ 検証計画

検証の視点	実施時期	検証の指標	達成目標
学びの過程を振り返ることができ授業作りは児童の「わかる」「できる」につながったか。	1 2月	標準学力テスト	全国平均を超える児童の割合 7 5 %以上
		単元末テスト	予想平均点を超える児童の割合 8 0 %以上
		児童の振り返り	肯定的評価 3.2 以上
上小授業モデルが実践できたか。	6月	教職員アンケート	肯定的評価 3.2 以上
	1 2月		
児童の実態に応じて設定された学びは，児童の「わかる」「できる」につながったか。	6月	児童アンケート	肯定的評価 85%以上
	1 2月		